

# 第4回地域デザイン会議（企業人G） 会議録

## 日時

令和2年11月17日（火）10:00～11:30

## 場所

新長田合同庁舎（神戸県民センター） D、E、F会議室

## 内容

意見交換

- 1 現在の神戸にあって、今後残したい・発展させたいもの・こと
- 2 30年後、神戸はどうなっていて欲しいか
- 3 そのためにこれから（県民が）できること・すべきことは何か

## 出席者

別紙のとおり



(座長)

この地域デザイン会議で出された様々なご意見というものが、新神戸地域ビジョン検討委員会においてビジョンという形でまとまっていくというスタイルになっている。30年という長期的な展望で見ているので、政策の提言や何か直近の現状にある今これが駄目だから何とかしろという話ではない。こうなっていて欲しい或いはこうなっているべきであろう、こういう地域であって欲しいという地域イメージ、地域像があって、そういう地域像を実現するために、何をしていったらいいのか。

つまり30年後というのは先の話だが、今何もないものを30年後に生み出すことはなかなか大変である。今から30年前を考えても、おそらく今あるものは30年前にも少し芽のようなものがあつたものが多い。全くなかつたものがぽつと現れることもあるが、イメージしていく上では、やはり現状あるものをどうしていくのかというスタンスが少し必要ではないか。今はこの地域に全く存在しないが、30年後にあつて欲しいというものでも構わないと思うが、伸ばしていく或いは生み出すというところを視点に、ビジョンというものがまとまっていくだろう。つまり、地域イメージとそれに向けてのある種のアクションというまで具体的なものではないかもしれないが、行動のイメージで構成されるだろうと私なりには考えている。

今の神戸にあつて今後残して発展させたいという、これは前回、前々回と少し具体的なお話も含めて皆さんにお伺いして、それがまとまっているのが参考資料となる。前回、前々回における皆さんの仕事の立場からのご発言が中心だったとすれば、もちろん今回もそれでも構わない。また、もう少し緩めて、神戸で生活している立場からご発言いただいてもいいかなと思う。例えば、子育てする中、暮らしていく中で、働く場所だけではなく、住んでいる場所として、神戸地域はこれからどうなっていく方がいいのかも含めて、皆様に自由にご発言をいただきたい。そこからご発言に対して少し掘り下げていこうと思う。

(農業A)

前回の会議で企業間連携について議論をしたが、その中で、なかなか企業間連携は上手くいかず難しい、というお話があつたと思う。一方で、意外な組み合わせで問題解決の糸口が掴めたというご報告もあつた。それが、すごく可能性のある話だなと感じた。

これまでと違って、ネット等の発展によって、もっと気軽に企業間だけでなく、産官学の交流を含め、深めていける時代になってきているのかなと思う。そうした交流を通じて、30年後には神戸地域がそれぞれの抱える問題を協力して、解決していけるようになればいい。そのための仕組み、プラットフォームができていれば嬉しいと思っている。

(外資)

今あつて残したいもの、発展させたいものについて、自分自身が神戸に外から8年前に移ってきて、子育てもしながら働いている観点で述べさせていただく。

以前の会議でも発言したが、神戸は都市と自然のバランスがすごくいい。そこを、今後の世代にも残していきたいと実感している。自然というと、子供が遊べる海や山や川がありつつ、住む場所として働く場所がちゃんとあるというバランスが残って欲しい。

30年後にどうなつて欲しいかについては、30年後は2050年で、あんまり明るい話題が見当たらない。少子高齢化から環境であつたり、東京一極集中であつたり。そういった中で地方の役割としてどういうものが求められるかという話になると思う。

一つ考えられるのが、SDGsで誰も取り残さないというのがあり、まさにそれではないかと思っている。今の日本は、そんなに例えば発展途上国と比べてそこまで課題が明確では

ない。もちろん課題はたくさんあると思うが、SDGsという考え方自体は、生活レベルでは実感しないかなというところが正直なところ。しかし、2050年はそういったものが本当に山積みかと思う。そういった中では、それこそ本当に身近に取り残されてしまうような方達が、今以上に出てしまうのではないかな。なので、30年後に神戸だけでなく社会全体にはあるが、誰も取り残されていないような社会ができればいいと思う。

そのために今から何ができるか。すごく難しいと思う。今もすでにされているが、各ターゲットに対するアクションを地道にやっていくしかないのかなと思っている。ターゲットというのは、例えば子供であったり、若者や若い働き手であったり、ベテランの働き手であったり、お年寄りの方や外国人の方であったり。そういった方達がそれぞれのライフステージにおいて感じている、実感している課題というのがあると思う。そういったところに対するアクションを地道にやっていく。それに尽きるのかなと思っている。

#### (医療)

医療に携わる立場からは、やはり阪神淡路大震災からの学び、そしてそこから医療都市としての発展した意識というのは、今後も残していきたいと思っている。今後、発展させていくためには、医療企業からの目線からすると、ともに新しいことを発見していくための仕組みづくりや連携が重要だと感じている。

30年後について、30年後の未来予測では人口がどんどん少なくなっていて、高齢化していくことは日本では避けられないと考えている。そうすると、前回でもお話があったように土地が痛んだり、水路のようなインフラが痛んだり、老朽化したりするのは想像に容易いかなと思った。つまり、町の力を維持することが難しくなってくると思っている、そういった未来を考えると、神戸には、まず人が集まる魅力的な町になって欲しい。そして、二つ目がスマートに生きられる町になって欲しいと個人的には感じている。

そのために、これから県民ができることとしては、具体的な第1ステップとして、魅力的な町にするためには、まず県民自身が神戸の魅力に気づき発信していくことが重要だと考えている。そして、自分のテリトリーの意識をどんどん神戸であったり、北区であったり、そういうふうにどんどん広げていくような活動が必要だと感じた。

#### (農業B)

今の神戸にあって残したい、発展させたいものとしては、自然が豊かで且つ都会も港も山もあるというところが、やはりすごくいいと感じている。今、小学生の子供がいて、私がか子供の時にこんなに色々と学んだのかなと思うぐらい、多様な授業がある。農業関係の地元ならではのところもあれば、港に行ってみて学んだり、神戸ならではの機会が多い。教科書も神戸に特化した教科書だったりする。もちろん、それを教育の中で知ることは大事だと思う。

一方で、伝える側が今の神戸自体に魅力を感じていなければ、子供たちには伝わらないと感じている。なので、神戸で働いてる人達も住んでいる人達も、いかに神戸の良さに気づくことができるか。そこが、ファーストステップとしては大事な部分だと思っている。それができれば、自然と子供たちにも神戸の良さや魅力が伝わって行って、その子供たちが、さらに多くの人に発信していくことによってまた人が集まってくる。人が集まってくることによってまた新たな産業が生まれる。日本全体では人が減っていくことは間違いないが、そんな循環ができればいいのかなと感じた。

#### (IT)

テーマの1つ目として、前回からのテーマの中にある自然に加えて産業も追加したいと

思っていて、そういったものが継続的に発展していること。この切り分け方はあまり好きではないが、便宜上、神戸の都市部を中央区として地方を須磨区や北区などと仮定してみる。地方にも、工業地帯があったり、産業的なものが沢山あるので、その部分の発展が必要になってくるかなと思ひ、この両方が発展していくことを一番に置いている。

30年後に神戸はどうなっていて欲しいかというところ、ここも前回からの引用になるが、地方と都市が物理的な距離を意識しないですむようなシームレスな繋がりがとれている関係。物理的な距離を意識しないですむようなシームレスというところ、おそらくテクノロジーというのが、30年後にはすごく発展していると思う。

今見えているもので、移動に関わってくるというところ、いわゆるMaaSというところと、ドローンとか配達。具体的などに落とし込んでいくと、前回、地方で収穫された農作物を中央の方に送るときに・・・という課題があったと思うが、そういったものはおそらく自動運転は30年後には確実に実現しているだろう。そこに対するコストや利便性はかなり向上していることは、もう前提で考えていいと思う。ドローン配達に関しても、地方からだけでなく中央から地方へということもあると思うが、何らかの配達や移動はほぼ意識しないですむようになってきているのかなと思ひている。ここは発展させると、物だけでなく人の移動というところもあって、朝、家族で自動運転機に乗り込んでいくと、気づいたらもう六甲の山頂に登ってましたみたいなことも実現されているんじゃないかなと思ひている。

そのために、これから県民ができることは何か。多分そういったテクノロジーは、今も見えているものとして二つ挙げたが、今後沢山出てくると思う。そういったデジタル、テクノロジーとそういったものを常に追いかけていたり、それを実験的に試すことを先行的に常に続けていくことが、私たちがすべきこと。そういったことを継続的に続けていくことで30年後、先ほど言ったような未来が実現できると思ひている。

#### (商店街)

商店町という立場から1つ目については、本当に私の気持ちからすれば商店町や市場は残っていけばいいなと思ひ。あとは神戸の地場産業である日本酒や家具、靴、洋服があるので、そういった文化や歴史も残っていったらいいなと思ひ。

一方で、2つ目に繋がっていくが、30年後になってくると、今はライフスタイルも変わってきたり、本当に商流も変わってきている。店で商品だけ見て、あとはネットで買うという流れになっている中、お店のあり方は考えていけない。物を売っていくというところはこれから厳しいかなと思ひている。商店町となってくると、そこでの会話から新しく生まれる、それが楽しいとか。なんか思い出に残るとか、そういったことが大事になってくるのかな。そういったときにこれからの商店町は、何か物を普通に売っていくというのは難しいと思ひている。そこを考えている中で、神戸は、南京町に観光もあり、農業や地場産業、金属加工もあつたりと色々なことがある。なので、地域ごとに役割をきちんと分けていくことが大事だと思ひている。分けてしまつて、その距離がやっぱり保てなくなるというのは良くないと思ひている。

最後にできることやすべきこととしては、今こうやって集まっているように、異業種のジャンルで、皆さんが集まりながら今後ちょっと新しく展開できるようなことを、新しいサービスであつたり、それが会話の中から接点を持っていくことで、新たなことが生まれてくるのではないかな。そういったことを定期的にやっていくことがすごく大事だと思ひている。

#### (多文化共生)

神戸の町には、本当に昔からいろんなルーツを持つ方が住んでいる。新長田はベトナム

の人もたくさんいて、南京町や在日コリアンの方だとか、また、神戸から日本人がブラジルへ渡ったというバックグラウンドもあるので、本当に神戸の町が国際都市として、多文化共生のまちとしてのロールモデルになるような町になって欲しい。

現在も役所などで情報発信を多言語ややさしい日本語を使って発信していくという取り組みをもうすでに始めている。これからどんどん外国人の労働者も増えるし、多文化ルーツを持つ方も増えていくと思う。祖父母や父母が日本に来て、日本で生まれた外国にルーツを持つ子供たちも大人になってきており、今後外国にルーツを持つ、多文化ルーツを持つ人たちが、神戸の住民として、神戸がふるさとになっていく環境になっていくかなと思う。日本の中で神戸が多文化共生の町として魅力を発信していけるようになればいいなと思っている。

#### (観光)

まず30年後について、今回の会議の冒頭で印象に残っている意見として、神戸は何においても中途半端というイメージがあった。30年後には、少なくとも神戸といえばこういう価値があるということが明確になっていて、それが住んでいる人にも、例えば関東にいる人から見ても、明確に体感できたり、認識できている状態であって欲しいなと思う。

実際に、神戸が中途半端なのかといえばそういう面もあると思う。しかし、実は昔からある神戸ならではの価値があり、それは今もずっと変わっていない。例えば、有馬温泉は日本最古の温泉地で、神戸の下を沈み込むフィリピン海プレートと太平洋プレートの作用によって生まれる。このフィリピン海プレートは世界で一番若いプレートで、太平洋プレートは世界で一番古いプレートである。その二つが交わっていることによって、例えば瀬戸内海は瀬戸、灘ができたり、それによって美味しい魚が生まれる。六甲山の古い火山の化石によって、宮水ができてお酒ができたり。あとはプレートの作用によって温泉が1000年以上前から湧いている。灘があるから、居留地ができて外国人がきて、港町ができたことへと繋がるわけで、そういった神戸ならではの文化とか価値がある。こういうことを活かしたものが新しくできていくといいなと思う。

それをするために、神戸ならではの価値が何かということ、少なくとも神戸に住んでいる人たちが知っているということを作るのがいいなと思っている。なので、小学生や幼稚園、高校生などそれぞれの子供たちに神戸の価値を教えてあげることができればいい。最終的に30年後に都市と田舎という二つの極と言ってしまうと、田舎は日本中にたくさんあってどこでもいいとなってしまう。そうではなく、神戸ではないといけないというそのポジションを作らないといけない。例えば、都市といえば大阪や東京があって、文化といえば京都があると思うが、その二つにもう一つの局ということで神戸を置くとすると、日本最古の文化や温泉がありながらも、居留地があって、しかも雑居地だったからこそ、日本中ある居留地の中でも文化がより根づいた。日本最古でありながら外国人文化にも強いというところから、神戸ならではの価値をポジションとして置けるのではないかと思う。

そういうポジションを置くと、今日の意見でもいくつかキーワードが出ていたが、例えばスマートに生きること、多文化共生、SDGsといったキーワードも、はまってくのではないかと思う。そういったことで、最終的には人が神戸といえばこういうところだから住んでみたいという方が日本全国から集まるようになればいいなと思う。

#### (座長)

今朝、兵庫県の人口動態で転出超過が非常に大きいというニュースが出ていた。兵庫県はもともと、そういう立地である。大学が多いということもあって、要は18歳の頃には西日本から集まってくるが、就職を機会に大阪や東京へ出ていってしまう。これは長年抱え

ている問題で、コロナの影響でという解釈もされていたが、西日本からあんまり入ってこないのに卒業すると出ていくので転出超過になってしまう。

このように、おそらく30年後、来年、再来年或いは5年後の世界だろうが、やっぱり少子高齢化と人口減少というのは大きな出来事である。その中で、30年後を考えていくと。

あんまり明るい話がないというお話もあったが、確かに明るい背景がない中でどう将来を考えるか、というところが次のビジョンなんだろうなという感想を持った。

少し掘り下げてお伺いしていきたい。最初の（農業A）さんのお話で、意外な組み合わせから何かでアイデアが生まれるということは、あればいいなという感じか。それとも、何か今こういうことがあるということはあたりするのか。

（農業A）

具体的に私が今何か、というわけではなく、可能性として非常に感じる。あればいいなということ。

（座長）

前回のデザイン会議のときに、いずれ三ノ宮のビルにオープンされるかもという話があったが、ああいう感じの交流の場はちょっと違う世界というか、ああいうのではないんだと思ったりはするの。

（農業A）

実際、場所に行くとなると敷居が高いというか、僕ごときがと気後れする感じがある。それよりは、今はインターネットでグループを作っていたりするので、そういったものでお互いの強みや問題点を共有している。将来的にはAIが、この人とあの人を組み合わせたら面白いことができるのではないかとこのことを導き出すような世界になっているかもしれない。そういったことをイメージして、お話しをさせていただいた。

（座長）

おそらく神戸市の政策的な働きかけもあり、割と大規模な人達とか或いは企業がコラボをするきっかけの場所づくりに熱が入っている感じはする。産官学連携の拠点とか言われると、我々もちょっと腰が引ける。ふらっといけないような、かなりガチッと固めて何か皆さんにお尋ねしたいという感じで行かないといけないイメージ。多分そういうふらっと行けるような場所のほうが大事なかもしれない。

（外資）さんからSDGsの話が出た。SDGsは大学の方でもキーワードになっているが、なかなか具体的に何か、となってくると難しいところもある。例えば勤め先や周りでSDGsの取り組みとして具体的にスタートされていることはあるか。

（外資）

SDGsだからこれをやろうという考え方というよりは、現状こういう課題があって、それに対して事業を通じてこういうことができる、というアプローチで考えている。例えば、昨年、弊社のお菓子のパッケージを、プラスチックから紙にしている。これは地球環境の中で海洋にプラスチックが流出してしまっている問題がある。2050年までには海の魚の数よりも、プラスチックごみのほうが多くなってしまおうという予測もある中で、何とかしようとしている色々な企業に取り組んでいる中の一つではある。それってSDGsでこういうことが言われているからやろうということではなくて、もともと課題が明確にある中でアプローチを考えていくというような感じ。

ただ最近、やっていることをどのように広く知っていただくかということで、例えば神戸市と連携して店頭での取り組みをしたり、そういったアプローチをしているというのは一つある。

(座長)

SDGsは企業主流というか、教育でも割と今入ってきていて、行政はこのキーワードを使ったプロジェクトが多いと思う。皆さんの周囲でSDGsってあるか。皆さんの周りでSDGsという言葉聞いたことがあるとか。

(医療)

弊社も事業を通して貢献しようと取り組みを行っている。SDGsでは世界でこういった課題があるというのが明確に示されているので、それに対して弊社はどういう風に貢献できるかを考える取り組みはある。先ほどの話と同じく、エコの観点から産業廃棄物を少なくするなど持続可能性に配慮した取り組みはよくあるが、実際にSDGsがきっかけ新たに生まれた取り組みというのは少ないという認識である。

他の企業と関わる中でSDGsという言葉だけが独り歩きしているような感じがして、実際目標としている2030年に至った時に、それがすべて解決しているかということそうではないと思うが、個人的にはSDGsは今の問題をみんなに広く周知するための手段としては良いと思っている。

(座長)

企業の社会貢献のプロセスは、結構昔から多分言葉を変えて存在している気がして、一時期はメセラと言ったり、社会貢献活動で文化活動により軸が近かったり、社会に企業がどう関わるかを表すきっかけの言葉になっているのだろうという気はする。確かにSDGsがあるから何かするというよりは、課題があって解決するためにアプローチをするところ。こういう取り組みが多分、歴史的には80年代ぐらいから活発になってきて、こういうのも大きな企業というか、できる企業がないとなかなか進まないという点では、神戸はある程度企業集積があるところなので、30年後に向けてもう少し広まっていくといいかなと思う。SDGsという言葉が残らなくても、やっている中身が残るといい。

取り組みの中で、神戸地域はやりやすいところだろうか。SDGsや市との連携であったり、社会的課題に対する動きの敏感さもあれば鈍さもあると思うが、いわゆる社会貢献活動的な取り組みをしたときの反応の良さ悪さについて何か考えるところはあるか。

(外資)

神戸市になるが、つなぐ課について。例えば、縦割りが問題で、何かやりたいと思ってもこれは別の局だからという形で今までやりづらかったところが、つなぐ課という新しい組織が立ち上がって、そこが横串を刺すような形で動き始めていることは、一つやりやすい面としてはある。

(座長)

(農業B)さんの、そもそも働く人や住む人が魅力に気づかないといけないという話。まずは住んでいる人間が神戸の良さに気づかないといけない。そうしないと子供に伝わらないという話は、確かにその通り。住む人間、働く人間が、神戸の良さに気づくきっかけは、どういうところにあるか。普段、ここかなみたいなものはあったりするか。



(農業B)

うちの場合は農業をしているが、シンプルに今やっている仕事自体が食べ物を作っていること自体は、食はすごく大事な部分なので価値があると思っている。神戸だからと言われると難しいが、地元の地下水からも塩が結構出てきていて、その塩をうまく取り入れながらブランディングをしている。その歴史なんか、今ちょっとわかればいいなと思っているが。

(座長)

多分、食を通じたブランド作りが一つのストーリー。

(農業B)

神戸ならではのというのはちょっと置いといたとしても、やっぱりやれている価値があるのかなと。農業は地域の天候にも大きく生成される部分なので、神戸ならではの気象条件であったり、寒暖差が大きい部分が何かに活かすことができるとかもある。いずれにしても、今、自分たちの取り組んでいる農業を本当に自分のみならず、従業員やパート含めて、価値を感じられるかというところかなと思っている。

(座長)

(医療)さんの仰っていたスマートに生きられるということについて、もう少し教えていただきたい。神戸や兵庫は、割とスマートさや先端性、洗練さという形容詞がついてくるところだったりする。このスマートに生きられるということ、将来像として、今もそうだしこれからも、というところもあると思う。

(医療)

人口減少や高齢化に伴って、町自体を維持していくのが難しくなるという先ほどの話の流れで、今、神戸にいる人数で町は維持されていると思うが、どんどん人が減って高齢化していくと、色んなところが老朽化して、人への負担がすごく増えるのではないかというイメージを持って、スマートという言葉を使った。

30年後にはどこの町も人が減っていくと考えたときに、人をたくさん神戸に集めても現状より人が減ってしまうイメージがある。今の神戸という町は魅力がたくさんある町だと思っているが、その魅力や町の力自体を維持していくためには、技術を活用したり、例えば荒れ地が増えていってしまったり、土地が増えてしまうことを想像したときに、人の手を使わずに、どうやったらスマートに生きられるのかを考えながら、お話しした。

(座長)

人口減少に対する表現の仕方はすごく難しいところがあって、これは多分、我々よりも行政の方々が一番苦労されているところだろうと思う。人口が増えるように頑張ると書かざるを得ない背景もありながら、なかなか現実にはそうはならない。国全体もそうで、将来人口推計というのは、将来の人口を予測するわけだが、3パターン予測する。一番悪い場合、中ぐらいの場合、一番良かった場合で予測するが、予測し直す度に数が減る。その度に維持できるように頑張る、増えるよう頑張ると書くが、一方で、現実におそらく人口減少が起きていくだろうという中で、世の中をどうしていくのかということを考えなきゃいけないフェーズでもあるのだろうなと思うことがある。

なかなか難しいが、少なくとも日本全国がそうであるときに、神戸だけが伸びることはほとんどありえないわけである。現実として起こる人口減少の中で、それでも町の魅力が

一緒に減っていくのかということとそうでもなかろうということもある気はする。人口減少を受け入れつつ、どう社会を維持するか或いは魅力を維持するかということ。これは多分どこにも答えはないのかもしれないが、それを考えなければいけない。

そこで、テクノロジーを先行的に試せる町というのは確かに神戸的な感じがある。テクノロジーが市民社会や県民社会に与える影響という話は、実際にそれを企業活動に取り入れている方からすると考えたりするのか。例えばニーズがどこにあるのか。果たしてテクノロジーを先行的に試すとなったときに、それが実装されてくというフェーズになってくと思うが、その辺りの時間間隔とか。

#### (IT)

マイクロソフトの社長の話で、もしかしたら単位が間違えているかもしれないが、コロナ禍で、3年間で進むはずのDXが3ヶ月で終わったとあった。それは、企業ではなく多分個人がテクノロジーを使ったからだと思う。例えば、私の子供が幼稚園に行っているが、コロナで幼稚園に行けないときに、あまりテクノロジーに詳しくない幼稚園の体操の先生がZOOMを使って体操教室をするから、皆さん参加してくださいということがあった。多分この状況って、3年後には発生していたかもしれないが、コロナという状況下で何とかしないといけないと先生が考えたから起こったこと。今は、もちろん企業もチャットを使ったりテレワークをしているが、個人単位がどんどんデジタル化していくことというのは一番インパクトが強くて早い。スピード感がすごく出てくると感じている。

企業という立場から言うと、少し問題になってくることがある。テクノロジー技術の大企業というか、トレンド企業の集約化みたいなのが起こっていて、そこが利益や売上を独占している感覚がある。その利益を独占している企業が直接個人に対してサービスを提供しているイメージがある。50年後、100年後には、企業を省いて大きい企業が直接個人に運ぶようなトレンドが発生しているのかなと思ったときに、じゃあ企業運営をしているような立場で働く私たちは何をしたらいいのかというのは、テクノロジーの発展と期待しつつも、ちょっと不安に感じるどころ。

#### (座長)

大学も思ったより適応した。60代の人には難しいと思っていたら、ZOOMで授業をやったと聞いてみんな驚いたという。コロナがこの先どうなるかわからないが、多分テクノロジーに適応する過程が後退することはないかなと思う。それが働き手にポジティブな影響だけではなさそうなところが確かに不安でもある。

(商店街)さんは、商店町の未来を一つ考えていただきたいというか、どう感じているか。つまり、いわゆる日本の社会、神戸だけではないが、社会を支えている繋がりインフラが結構変わっていく過程だと思う。それは自治会であったり、町内会であったり。商業的には多分、商店町という繋がりが変わってくると思うが、物より体験的とか、個人商店の厳しさがある一方で、利便性は別として神戸地域が非常に大きなショッピングセンターの集合体になることがまちの魅力になるかということとはまた別だろう。残していくべき或いは残っていくべき商店町の良さ、或いはあるべき商店町の姿について少し教えていただきたい。

#### (商店街)

市場は生活に密着しているので、買い回りは絶対近隣の住人がすると思う。大きなショッピングモールやスーパーができたとしても、やはり何かそこで生鮮などの説明を受けたらそこで買うというのは流れができるかなと思う。

一方で、物販になってくると、店に来る意味を作らないと、なかなか残っていけないだろうなと思っている。南京町は食べ歩きができることが観光にあたってくるだろうし、それが思い出になる。では、商店町は何になるのだろうと考えると難しい。物を買うというよりも、そこで何か体験して思い出に残して帰ってもらおうとか、写真を撮る場所があるとか。神戸は商店町を通過してコンパクトな町なので、1日か2日でまわりながらいっぱい思い出に残ったなという場所になればいいと思っている。もう物を売るだけということは、少し違うかなと考えている。

(座長)

神戸には割と商店町が多いイメージがあり、町の資源としては大きいなと思う。スモールサイズのメディアや店を残す価値が、だんだん景気が悪くなったりすると、後回しになっていくのは残念かなというところもある。

(多文化共生) さんからは多文化共生、多文化社会のサポートというところだったが、おそらく神戸地域の歴史でもあるし、大きな魅力であるとともに課題にもなってくると思う。神戸の持つ多文化社会としての魅力を発信していくというところもありながら、今後30年の中で、多文化社会として神戸が抱える社会的課題とか、これから何かこう大きくなっていくであろう問題については何か考えたりしているか。

(多文化共生)

私が普段働いている救援ネットは本当に多くの相談が寄せられるところである。例えば、国際結婚の家庭の中での子育ての問題、離婚の相談もある。働いている方は、職場でのパワハラや差別的な経験をされている方も多し。家探しをしている時に外国人ということで、なかなか住まいが見つけれないというような相談も受けたりしている。今後、外国人の方が増えていけば、どんどんそういう相談事は発生していくと思う。もちろん行政機関での対応も必要にはなるが、地域である程度対応をできたら、大きな相談に発展せずすんでいくのかなとも思う。

(座長)

課題のタイプは今までと少し変わってきているか。それとも昔から大体そういう課題が多かったりするのかな。

(多文化共生)

救援ネット自体は神戸の震災をきっかけにできた団体で、その立ち上げ時の運営委員の話は聞く限りだが、やっぱり日本に来る外国人の方の流れも時代によって変わっているというのがあると思う。80年代ぐらいは日系ブラジルの方がきていたのが、90年代ぐらいになるとフィリピンの方や、今では技能実習生で中国やベトナムの方は急増している。相談対応に必要な言語も変わってくるし、地域によってどんな国の人が多く住んでいるかというのも違う。例えば長田の区役所はベトナム語の通訳者が以前からいたりする。そういうのがあるので、これから30年後に、どういうルーツの国の方が増えてくるのかは分からないが、そういう流れもあるかなと思う。

(座長)

最後の(観光)さんの神戸ならではの価値ということ。神戸にこんな価値があるというのは、多分ないわけではないと思う。それを住んでいる者にとっての再発見、見つけていく発信するというプロセスが大事になってくるのだろうなというところだと思う。神戸じ

やなぎやならないポジション或いは神戸の価値みたいなものは、今何か練ってあったりするか。これは磨けば光るものがあれば教えてほしい。

(観光)

色々あるとは思いますが。先ほど商店町のお話をお聞きして、こんなのはどうかと思ったことがある。前々回の会議の中で神戸は海も山も近く、田んぼも畑もあるところ。例えば大型ショッピングセンターやスーパーで買えるのは全国の品物で、どこで買ってもそんなに変わらないものが買えるだろうと思う。しかし、例えば商店町や小規模の商店であれば、近場の田んぼの農家と直契約をどんどん進めていったり漁港から直で魚を仕入れるとかをしていけば、地元の在来野菜なんかはもっと増えたり、神戸にしかない野菜でしか作れない料理を、商店町がハブになってアピールしていく。すると、大手ショッピングセンターには、真似できないような魅力ができるんじゃないか。神戸らしい土地柄だからできるというような商店町ができたりするんじゃないかなとか思う。例えば、スーパーコンピュータもあって、シミュレーションも上手だと思う。SDGsの話もあったが、例えば川の整備をし直して、蜚などが戻ってくるような護岸をすることによって、海や山の多様性が改善するので、県や市で投資する価値があるのではないかというシミュレーションにテクノロジーを使うのもあるのかな。また、洋館や日本建築が多くあると思うが、火事で燃えなくなったり、何らかの理由で売却されて取り壊しということも起きている。なくなるよりは3Dスキャンで現状の設計をすべて記録しておくこと等で過去の建築の詳細がわかれば、この土地ならではの建築文化を残すことができるので、将来的にもしかしたらこの界限はこういうエレメントを盛り込んだ建築だけにしようというまちづくりに活かすこともできたりするだろう。そうすると、初回の会議であった一貫性のある町並みにも活かすことができるのではないかと思った。

(座長)

最後になったが、30年後はこうなっていて欲しいなということを一言いただきたい。

(洋菓子)

コロナになって神戸が誇るユーハイムやモロゾフだったり、今すごく大変なことになっている。今までは大手の菓子屋はたくさん量を作って全国に売るという形でやっていた。兵庫県洋菓子協会があり、ユーハイムは一般の人もオンラインで作り方を教えて家庭でもできるバームクーヘンの機械を開発するなどの努力をしている。

神戸と言えばスイーツという感じがするので、30年後世界から、全国からお菓子を目指してきてもらえるようなまちづくりを、小さいお菓子屋が集まって、何とか発展させていきたい。子供たちに夢を与えるお菓子をつくっていきたい。

(座長)

この会議体も今日で最後ということなので、最後に簡単に感想でも構わない。或いは最後にこれだけ言っておきたい、ビジョンにこういうキーワード入れてほしいという話でも構わないので、一言ずついただければと思う。

(農業A)

今日のお話の中で、スマートな生き方ということとテクノロジーというワードが出てきたと思う。案外農業の方で、そういう分野に進んでいるのかなと感じた。無人で田植え機が稲を植えていくとか、そういった技術が結構先行しているので、そういうところを目

指せるのであれば、もしかしたら農業が参考になるかもしれないなと少し思った。

(外資)

個人的には、個人単位でデジタル化をしていくということがすごく響いた。まさにコロナ禍で意識せずに、自分も含めてやっていたなど。そうすることで、各会社単位だったり、行政単位だったり、そういったところも当たり前前に導入しているから、導入しやすい環境ができてくるのかなと思った。人口がどんどん減っていくのはもう仕方ないので、それをいかにポジティブに捉えてやっていくか。デジタル化、新しい技術を取り入れて、そういったことをやっていくのはとても大事なことだなと改めて思った。

(医療)

今回の機会をいただいて、改めて私自身、神戸についてよく考えて魅力を再発見することができたと思っている。会社で人が健康に生きられるためにはどういうテクノロジーが必要かという観点で仕事はしているが、神戸を盛り上げていくにはという観点が新たにできたのかなと思っている。それを持ち帰って、また研究に励んでいきたい。

(洋菓子)

僕は神戸で生まれて神戸で育って、今までこんなことを考えたこともなかったが、振り返るとやっぱり神戸っていい町だなと思う。全国的にも神戸はすごくお洒落な町というイメージがある。今後またこういう機会があれば、生まれ育った神戸のことを考えてやっていけたらと思う。

(農業B)

色んな方の意見を聞くことで、本当に学びが多い時間を得ることができた。農業には、まだまだ伸び代もたくさんあれば課題もあって、それを解決していくために企業間で連携できることは沢山あるような気がしている。これを機にまた何か皆さんで繋がることがあれば嬉しく思う。

(IT)

兵庫県にお願いしたい。今回の会議ではキーワードとして、子供の教育や地域の魅力、テクノロジーがよく出てきたかなと思う。それらを私なりにまとめると、30年後を考えると1番投資すべき対象というのは子供だと思っている。子供に対して、今回でてきたような神戸の魅力を伝えたり、彼らが学べるような施策をしたほうがいいのかと思う。学校教育の中で、観光や農業体験などの諸々を含めて、そういった所をインプットしておく。

あともう一つ、子供に対してデジタル教育をするというのは、全国的な流れになっていると思うので、彼らがデフォルトデジタルみたいな人間になっていたとしたら、30年後彼らがデータを活用するということで、主役になってくると思う。地域の魅力を伝えて物理的というか、非デジタルとデジタル的なものの両面で、行政の力で彼らを教育とか、成長を促すようなことをしていただけると30年は明るい未来になるのかなと思ったりする。そこに対してちょっと、ご協力いただければいいかなと思っている。

(商店街)

先ほど(観光)さんからご助言をいただいた内容を聞きながらハッと思わせられた。近くに百貨店もよくあるが、百貨店も自主の売り場、要は自分でセレクトしておく売り場は今後なくなっていくと聞いている。そうなると、やはりメーカーのテナント誘致になって

くる。地下に関してはおそらく地場のお店が入るのかなと思うが、上のフロアでファッションとかになると、神戸だけではない企業が誘致されていくのかなと思う。

そこでやっぱり商店町を差別化するには、地域ともしっかり連携して行って、元町商店町にはユーハイム、本高砂屋、亀井堂や風月堂があったり、スイーツのお店も結構多い。そういった地場の文化も発信していきながら、地域の生鮮とも連携して、PRする場になっていくのがいいのだろうなと思った。そこを目指して頑張っていけたらなと思う。

#### (多文化共生)

今日皆さんがそれぞれ、神戸の魅力をお話しただけでも9つの魅力が神戸にはあるのだなと思った。それぞれの魅力が今までの神戸の歴史からできている部分でもあるのかなと改めて実感した。30年後に神戸がどんな町になっていくのかを想像しつつ、今ある魅力をそれぞれが色んな方法を考えながら発信していけたらいいのかなと思った。

#### (観光)

人口減少という、お金も集まらなくなって、何となく先が暗いと感じることもあるが、個人的にはそんなに悲観的ではない。やっぱりこの土地ならではの一番が沢山あるので、それを中心に価値を作っていくことで、いろんな人がここで住んでみたいとか、ここが絶対好きだという人たちが増えてきたらいいなと思う。そうすると実際の人口は減ったとしても、例えばお金は集まるだろうし、もしかしたら自分たちの家のサイズが2倍になったり、公園や緑も増えたり、傾斜も緩やかにできて護岸もできたりするかもしれない。その価値が高まってくると、観光で訪れる人も増えるだろうし、それこそ外国人が住んだり、国際結婚でここに住みつくような人達も増えると思う。そういう住みたい場所にしていくことで、先は明るいのではないかなと思った。

#### (座長)

私も短期間でこんなに様々な方のお話を伺うという機会がなかなかないので大変勉強になった。神戸地域のビジョンを考えるときに、やはり固有のものに根ざさなければいけないのだなということはあると思う。つまり、それは文化であり歴史であり、それから自然という、活かした地域性であり土地柄というもの。そういうものに根ざした将来像であるべきなのだろう。

やはりトレンドとして、どうしても外から呼んでくるということにすごく力が入ってしまうところだが、今働いている人や住んでいる人にとって、どう向き合うかがポイントとなってくるだろうなと思った。今日も、そもそも働く人や住んでいる人が神戸の魅力を知らなければいけないし、それを他の人に伝えられるぐらいになってかないといけない。

今神戸にいない人をどう神戸に呼び込むかということも、もちろん大事な施策の一端ではあるだろうが、この町は今住んでいる人や働いている人にとってどうなのか、ということを考えていくということも必要だろうなということがよく勉強になった。

(別紙)

座長

氏名	所属・役職
星 敦士	甲南大学文学部教授 (新神戸地域ビジョン検討委員会委員長)

出席者

分野	所属
観光	有馬山叢 御所別墅
多文化共生	NGO神戸外国人救援ネット
商店街	(株)喜市
IT	(株)神戸デジタルラボ
医療	シスメックス(株)
農業	(株)東馬場農園
農業	藤本園芸
洋菓子	(株)レーブ ドゥ シェフ
外資	ネスレ日本(株)

(五十音順)

県民センター (事務局)

氏名	所属・役職
柳田 順一	神戸県民センター県民交流室次長
前野 芳範	神戸県民センター県民交流室長補佐兼総務防災課長
西川 理	神戸県民センター県民交流室総務防災課ビジョン担当班長
田原 由加里	神戸県民センター県民交流室総務防災課ビジョン担当職員